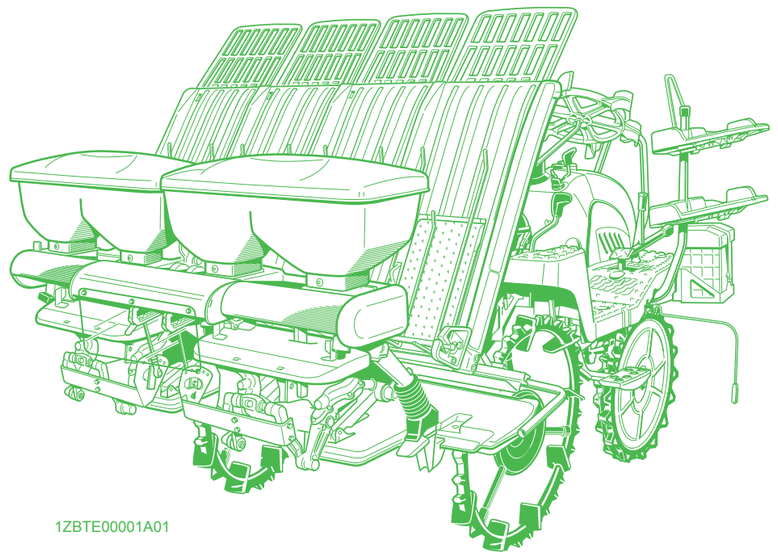
RST-41・41H

田植機

取扱説明書

RST-41・41H



1ZBTE00001A01

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

No. 9 5 7 0 0 0 0 0 1 5 0

品番　PK211-9471-2

はじめに

このたびは三菱マヒンドラ農機製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
また、この側条施肥機以外の取扱いについては、田植機本機の取扱説明書をよく読み、理解した上で安全な作業を行なってください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた安全ラベル（⚠マークのあるラベル）は、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、安全ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

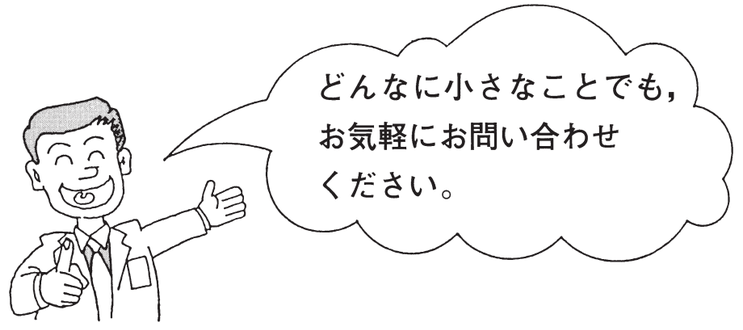
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

RST-41/41H
AY．J．1-1．0．AK

本製品の使用目的について

本製品は、苗の植付けと同時に施肥作業を行なう作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

目次

安全に作業するために 3

サービスと保証について 5

ご相談窓口 5
補修用部品の供給年限について 5

施肥装置の名称と取扱い 6

施肥装置の名称とはたらき 6
1. ホッパ 7
2. ロールケース（繰出し部） 7
3. 施肥量調量金具 7
4. 株数調節金具 7

運転前の点検 8

日常点検項目 8

移動走行と輸送 9

移動・輸送について 9

田植作業のしかた 10

施肥作業のしかた 10
1. ほ場と肥料について 10
1.1 ほ場条件 10
1.2 肥料について 10
1.3 一発肥料使用時の注意 12
2. 作業前の準備 13
3. 施肥ムラ（成育ムラ）の防止 14
4. 施肥作業中の確認 14
5. 肥料の補給のしかた 14
6. 肥料詰りセンサについて 14
7. 肥料切れセンサについて 15
8. あぜぎわの植付けかた 15
9. ホッパ内の肥料の排出のしかた 16
作業に合わせた各部の調節・調整 17
1. ふく土板の調節 17
2. 施肥量の調節[LC41] 17
3. 施肥量の調節[LC41H] 21
4. 繰出し量目標値一覧表 25

メンテナンス 27

各部の掃除と注油のしかた 27
1. 掃除のしかた 27
1.1 施肥部 27
2. 注油のしかた 28
定期点検 29
1. 定期点検一覧表 30
2. 給・注油点検一覧表 30
3. 電装部の各配線コードの点検 30
植付け作業後の手入れ 30
1. 毎日の作業後 31
2. 長期格納時 31

乗用田植機の不調と処置 32

浮苗が出る・植付けが乱れる 32
施肥をしない・施肥量がばらつく 33

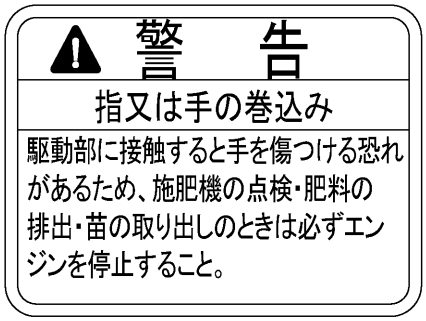
付表 34
主要諸元.....34
付属部品.....35
消耗部品（純正部品を使いましょう）.....35
索引 36

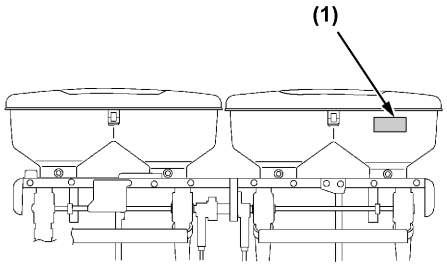
安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で⚠ 危険・⚠ 警告・⚠ 注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全ラベルと貼付位置

(1)品番　95700000180





1ZLWN00037A02

1QMQZ00002A01jaJP

安全ラベルの手入れ

安全ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守る

- 安全ラベルはいつもきれいにして、傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

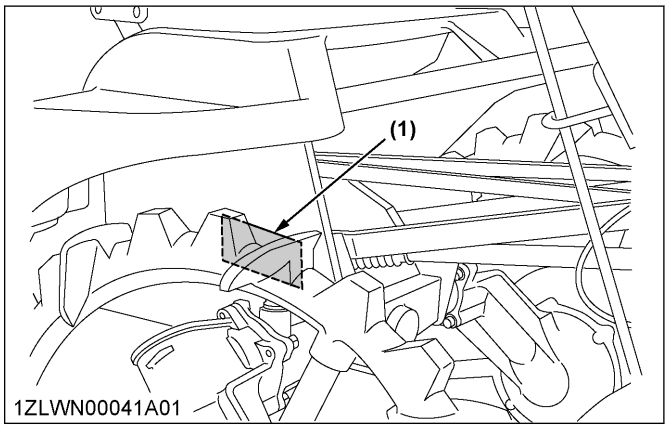
⚠ 警告
- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

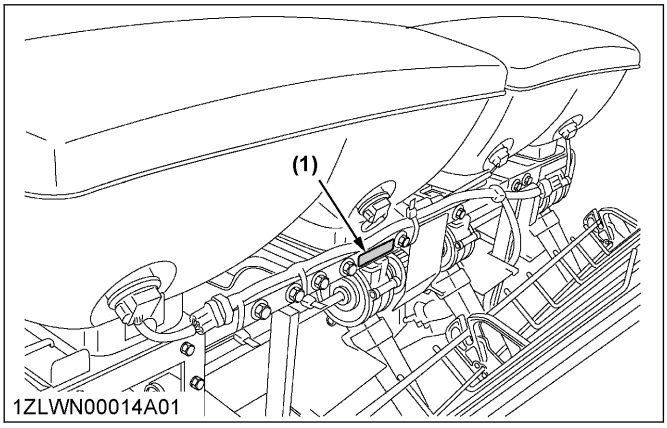
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ **[ご相談窓口]** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、銘板に記載している
- 田植機本機の型式名・区分と製造番号
- 施肥機の型式名と製造番号

をあわせてご連絡ください。
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。

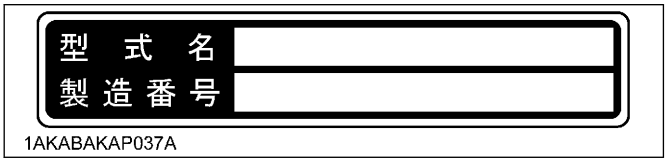


(1) 型式名・区分・製造番号





(1) 型式名・製造番号

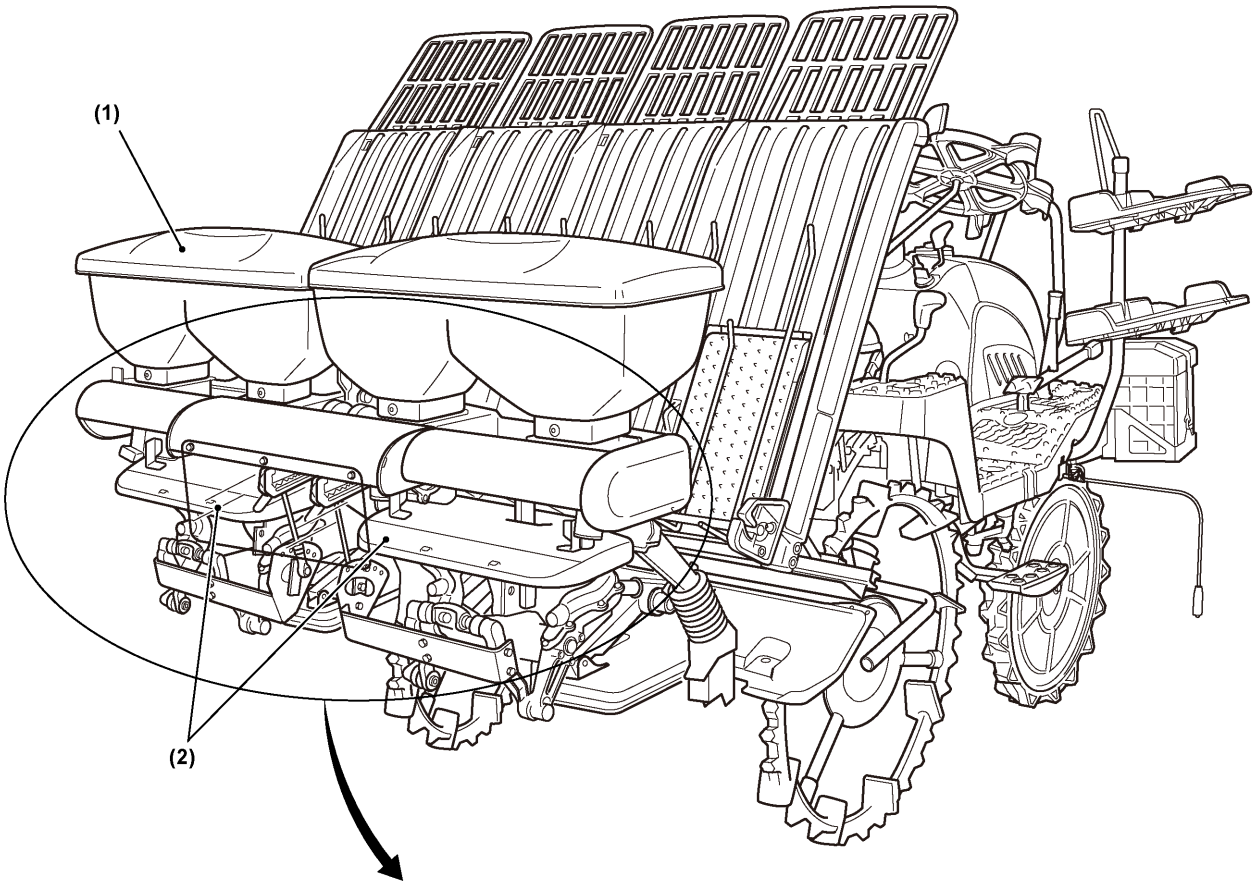


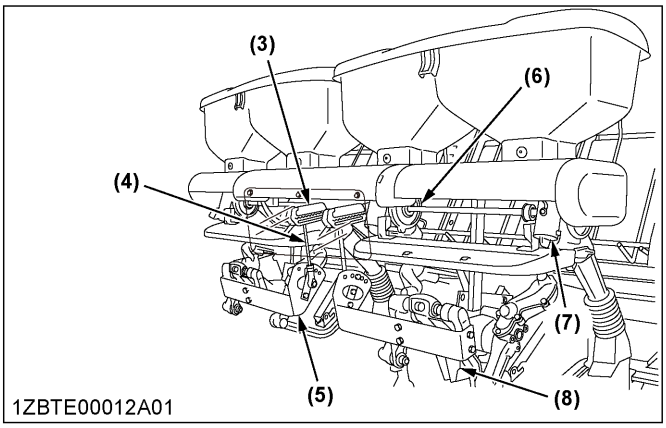
補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

施肥装置の名称と取扱い

施肥装置の名称とはたらき





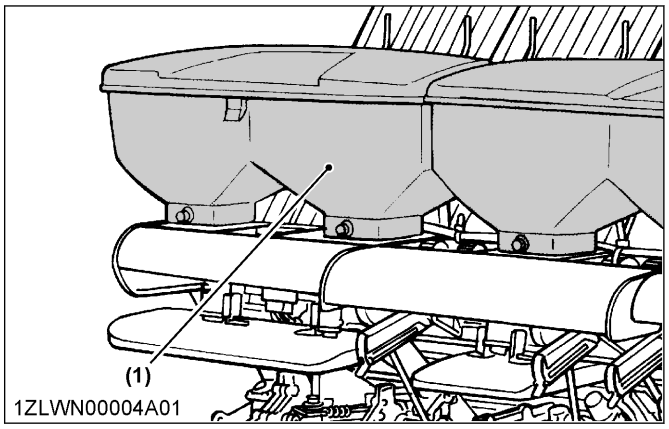
1ZBTE00012A01

1ZBTE00002A01

(1) ホッパ
(2) 泥よけカバー
(3) 施肥量調量金具
(4) 肥料繰出しロッド
(5) 株数調節金具
(6) ロールケース
(7) 残肥排出口
(8) 作溝器

1. ホッパ

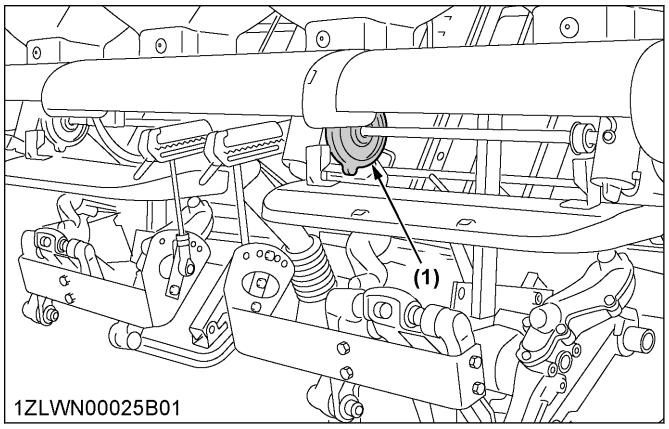
粒状の肥料を入れるところです。



(1) ホッパ

2. ロールケース（繰出し部）

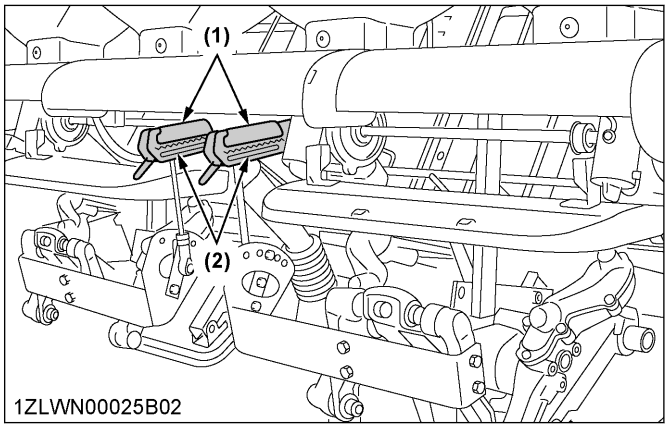
ホッパ内の肥料の繰出量を調節し、設定された量を常に一定にして繰出すところです。



(1) ロールケース

3. 施肥量調量金具

施肥量を調節する金具です。



(1) 施肥量調量金具
(2) 設定金具

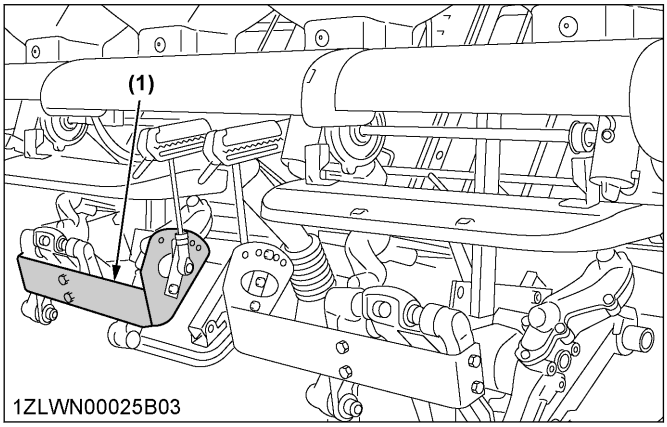
補足：

- **出荷時は、20 kg/10 a（設定金具位置）の位置です。**

4. 株数調節金具

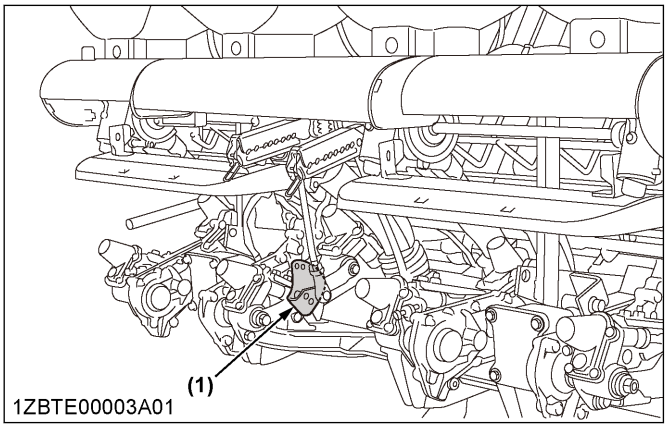
本機側で設定された植付株数に合わせて施肥量を調節する金具です。

[LC41]



(1) 株数調節金具

[LC41H]



(1) 株数調節金具

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行なってください。（点検・調整方法の詳細は、27 ページを参照。）

⚠ 警告

- **平たんな場所で駐車ブレーキを掛け、必ずエンジンを停止してから行なってください。**
- **取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれが有るので、点検後は必ず取付けてから作業をしてください。**

⚠ 注意

- **運転前に日常点検を行ない、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**

前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

田植機の周りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
2. 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
3. 機体各部にごみや泥がたまっていないか点検します。

日常点検項目

ここを ➡	点検し異常があれば ➡	こうする（処置）	参照ページ
機体の周りを歩いて			
チューブ	• 破損や外れはないか。	• 交換または、取付けをする。	–
作溝器・詰まりセンサ	• 肥料や泥が付着していないか。	• 掃除する。	–
ロールケース・ロール・ホッパ・施肥センサ	• 肥料が付着していないか。	• 掃除する。	27

重要：

- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡してください。**

移動走行と輸送

移動・輸送について

⚠ 警告

- **肥料や苗を積んだままの移動や、トラックなどへの積降ろし・運搬はさけてください。（肥料や苗の積載によって荷重がふえ、重心も高くなって転倒し易くなり、また振動で機械が破損したりするおそれがあります。）**
- **トラックなどへの積降ろしやあぜぎわの昇り降りのときは、特に運転に注意して、転倒したり機械の向きを誤らないように注意し、運転者や周囲の人の安全確保をはかってください。**

田植機の取扱い要領は、田植機本機の『移動走行について』・『輸送について』に従ってください。

- 運搬するときは、施肥機の部分には絶対にロープ掛けしないでください。（施肥機が破損したり、施肥位置が狂って、肥料障害発生の原因になります。）
- 運搬、移動するときは、植付部を上げ油圧昇降ロックを行なって、フロートから下に出ている溝切板や作溝器が路面などに当らないようにしてください。
- 植付部を下げた状態では、路上や未耕地ほ場で移動させないでください。（作溝器や溝切板が変形するおそれがあります。）

田植作業のしかた

施肥作業のしかた

1. ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ、苗の発育が正常に行なわれないことがありますので、施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

1.1 ほ場条件

施肥作業を行なうとき、田植作業のほ場条件と合わせて下記事項を守ってください。

- 夾雑物（わら、刈株、堆肥、雑草など）は施肥田植え時の障害になるので、耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

  補足：
  - **耕うん・代かき装置は購入先とご相談の上、夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。**
  - **夾雑物が表層部（地表面～深さ 8 cm 程度の範囲）に有ると、溝切板や作溝器に引っかかって、施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。**
  - **収穫時コンバインのカッタで、わらを切断散布したときは、その上に石灰窒素を散布して秋の内によくスキ込んで、腐らせておくようにしてください。**
- 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は、絶対にしないでください。

  補足：
  - **基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行なう場合には、その指定要領に従ってください。**
- ほ場の深さは、10～25 cm が適しています。30 cm 以上（補助車輪の場合は 35 cm）の深さでは使用できません。
- 代かき時の均平度をよくして、地表面からの水深が、なるべく一定になるようにしてください。
  代かき後、田面に凹凸が有る場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度が硬くなるので、じゅうぶん湛水して、地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし、田植えの直前にじゅうぶん落水するようにしてください。

  補足：
  - **土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。**
- 作業時の水の深さは、浅水とし 0.5～2 cm 程度が適当です。
  1. 田面の水が皆無（水深 0 cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。
     - 車輪スリップが増し、株間が狭くなります。
     - 作溝器に泥詰まりを生じ、肥料が詰まって無施肥区ができ、生育ムラの原因となります。
     - 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。
  2. 田面の水が多すぎる（水深 2 cm 以上）場合には、作溝器内の上部やホース内に水が侵入し肥料の落下状態が悪くなり、所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりや肥料詰りセンサの誤作動も発生しやすくなります。
- ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて跡が少しふさがれる程度が適当です。
  1. ほ場の土壌硬度（125 g のサゲフリを地表面上 1 m の高さから落下させて、地表面から土中に入った深さ）は 7～18 cm の範囲内とします。
  2. ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく、植付け姿勢も乱れます。
  3. ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し、株間が狭くなるばかりでなく、作溝施肥跡のふく土が不完全となり、肥料溶出のおそれがあります。

  補足：
  - **特殊な条件のほ場（基盤整備直後の田や湿田など）では、作業に支障をきたすことがありますので、あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。**

1.2 肥料について

- 肥料は市販の粒状肥料の中から施肥作業に適したものを選んでください。

  重要：
  - **施肥作業に適さない肥料を使用した場合は、下記のような不具合が発生することがあります。**
    - **肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。**
    - **繰出し精度が不良となり施肥量に誤差が生じる。**
    - **肥料詰まりや施肥ムラが生じる。**
  - **最近、側条施肥田植機専用肥料が市販されていますので、使用をお薦めしますが、中には適さない物も含まれていますので、注意してください。**

  ※吸湿性について
  吸湿性の少ない肥料を選んでください。

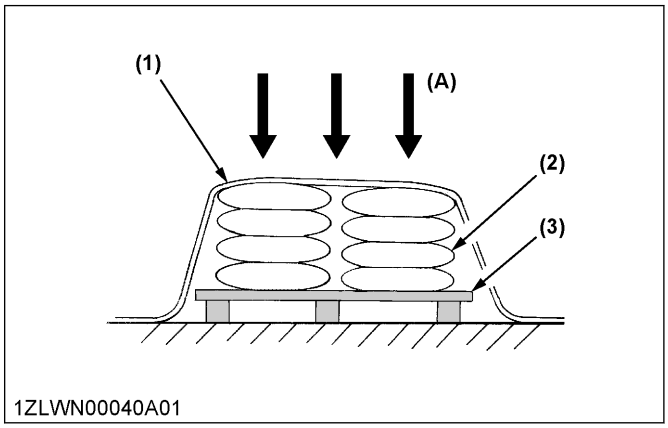
[参考]

吸湿性の少ない	吸湿性の多い
• 硫安系化成 • 硫化燐安系高度化成 • 塩化燐安系高度化成 • IB 化成	• 尿素系高度普通化成 • 硝安系高度普通化成 • CDU 化成

- 肥料は開封していない、新しい物を使用してください。
- 湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は、使用を避けてください。

補足：

– 雨天時、肥料や肥料袋がぬれないように台の上に肥料を置き、上からシートを掛けてください。



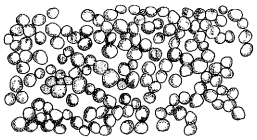
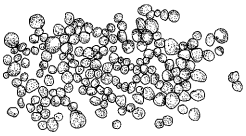
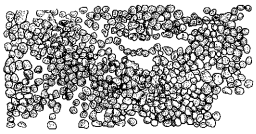
(1) シート
(2) 肥料
(3) 台
(A) 雨

- 光を通し易い透明な肥料（硫安単肥など）は、残量センサが誤作動しますので、使用を避けてください。
- ホッパに肥料を補給するときは、ふるい網を通してください。

1.3 一発肥料使用時の注意

一発肥料をご使用の際は、以下の項目をご確認の上、あらかじめ農業改良普及所などの農業指導機関と良くご相談し、適切な施肥設計に基づいた肥培管理を行なってください。

- 繰出し量が調量ツマミの位置の標準値と異なる場合があります。
  繰出しテストを行なって目標とする施肥量に調整してください。
- 粒形が不揃いなものや砕けやすいものがあります。
  このような肥料は側条施肥機では使用しないでください。
- 被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。また、品種、土壌の影響も受けることがあります。
  たとえば、平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため、過繁茂になったり、肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。

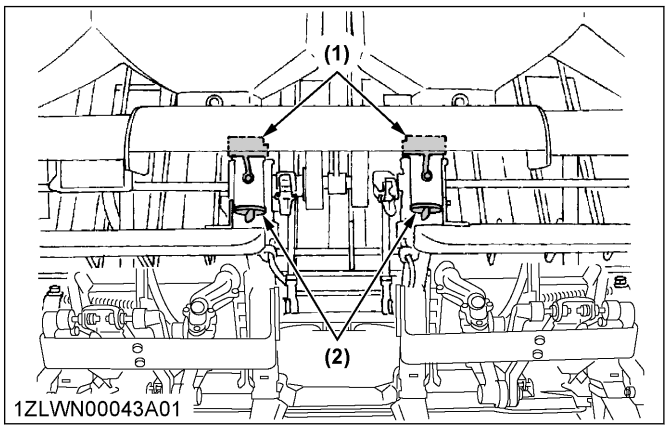
使用条件の目安	粒の硬さ	粒の大きさ・形状・ばらつき			
		大きさ	形状	ばらつき	見本（実物大）
○（適当） ↕ ×（不適当）	硬い （吸湿性が少なくべとべとしない） ↕ 軟い （吸湿性が多くべとべとする）	2 mm～4 mm ↕ 2 mm 以下 （粒状含む）	円形 ↕ 角ばっている	少ない ↕ 多い	**○（適当）**  1JDZF00198A01 **△（やや不適当）**  1JDZF00198B01 **×（不適当）**  1JDZF00198C01

2. 作業前の準備

⚠ 注意
- **平たんな場所で行なってください。**

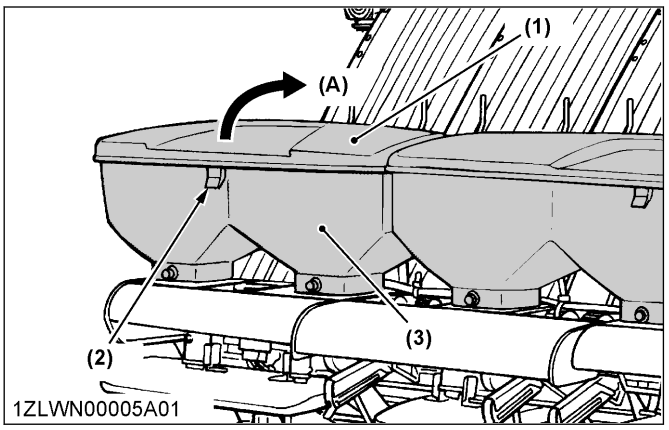
重要：
- **雨天時に作業を行なったあと長時間放置すると肥料が固着し、翌日以降の施肥作業に異常が発生（施肥がされないなど）するおそれがあります。**

1. 各部の点検を行ない、汚れや詰まりが有るときは掃除を行ないます。
（各部の掃除と注油のしかた（27 ページ）参照）
（また、破損や摩耗が有るときは、交換を行なってください。）
（27 ページ参照）
2. 次記項目に異常がないか点検・確認し、異常があれば正しく取付けて各部を作業状態にします。
   - 各条止めレバーが**[入]**位置になっているか確認します。
   - 残肥排出口のキャップと条止めシャッタのキャップを正しくはめ込んでいるか確認します。



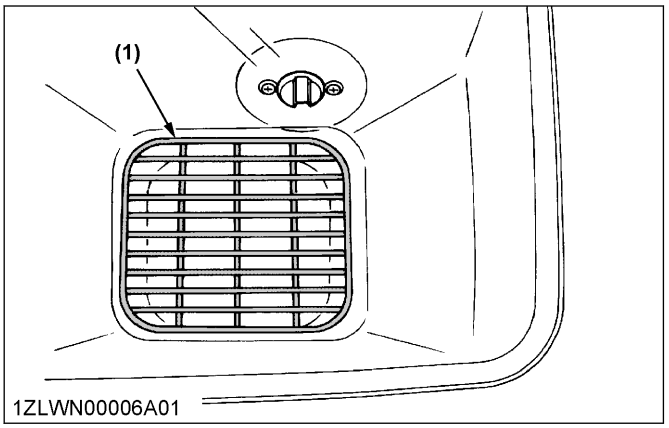
(1) キャップ（条止めシャッタ用）
(2) キャップ（残肥排出口）

3. 施肥量を決めて、繰出し量を調節します。
（作業に合わせた各部の調節・調整（17 ページ）参照）
4. フックを外し、ホッパのふたを開いて肥料を入れます。



(1) ふた
(2) フック
(3) ホッパ
(A) 開ける

重要：
- **ホッパ内には肥料以外のものは入れないでください。また、ホッパの上に強い力をかけないでください。破損の原因になります。**
- **ネットを取外した状態では肥料を入れないでください。肥料のかたまりがロール溝に入り、詰まりの原因になります。**



(1) ネット

- **肥料が原因で目詰まりを起こし、成育ムラが生じないようにするため下記の事項に注意してください。**
  - **ネットに残った大きな肥料は取除いてください。**
  - **ホッパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにしてください。**
  - **連日の作業を行なうときでも必ず肥料を排出してください。**
  - **1 晩置いて露が発生したときは、ホッパ内、ネット、ロール部の露を拭取ってください。**
  - **開封後しばらくして湿気を吸った肥料で、固まったものは使用しないでください。**
  - **運搬時にホッパ内の肥料は空にしてください。（振動により目詰まりが発生することが有るため）**
  - **ロール溝に肥料粉が付着しているときは、必ず掃除してください。**

補足：
- **重さ（kg）は肥料の種類によって異なる場合がありますが、ホッパ容量（L）は下記のとおりです。**
  32 L（約 29 kg）

3. 施肥ムラ（成育ムラ）の防止

施肥ムラが有ると、苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。
- 植付け始めは低速で行なってください。最初の 2～3 株に施肥がされない場合があります。
- 必ず減速してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
- 植付け速度は一定の速さで、まっすぐ行なってください。施肥ムラやふく土異常の原因となります。
- 枕地の植付けや変形田での植付け時、交差植えや無植箇所を少なくしてください。多肥になったり、肥料がムダになる場合があります。
- 肥料切れの警報ブザーが鳴ったら早目に肥料を補給してください。
- 肥料は側条施肥専用のものを使用してください。吸湿性の多い肥料、やわらかい肥料、不揃いの肥料は使用しないでください。詰まりの原因となります。
- 田面に水気が無く硬くなっている場合は、ふく土がされにくいので、田植作業に適したほ場条件で作業を行なってください。

4. 施肥作業中の確認

作業中にふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し、処置をします。
（13 ページ参照）

重要：
- **植付部を降した状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり、詰まりの原因となります。**

補足：
- **高速での植付け時に、隣接の苗を押し倒すときは、各フロート下面に有るふく土板の調整を行なってください。**
  （17 ページ参照）
- **蛇行運転をすると、ふく土が正しくされないことがあります。**

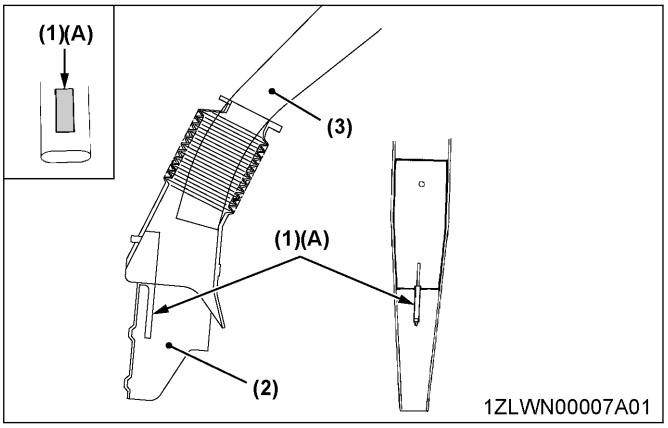
5. 肥料の補給のしかた

肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて、警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは、早目に肥料を補給してください。

補足：
- **植付クラッチレバーを[N]（中立）位置にすると警報ブザーは停止します。**
- **肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行なってください。**

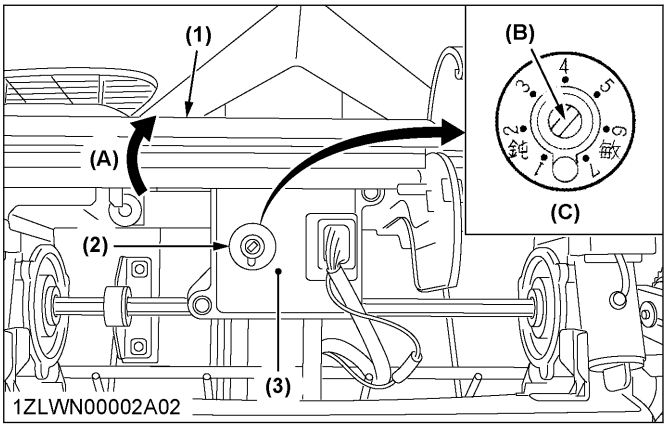
6. 肥料詰りセンサについて

肥料詰りセンサは、作溝器内に泥水や小粒肥料、肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。センサがはたらくと、警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは、作溝器内の異物を取除き、全条の作溝器の点検と掃除を行なってください。



(1) 電極
(2) 作溝器
(3) チューブ
(A) 湿った肥料が電極に付着すると通電してブザーで知らせる

補足：
- **深水ほ場で、苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して、詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを[鈍]側（鈍感）の方向に調整して作業を続けてください。**



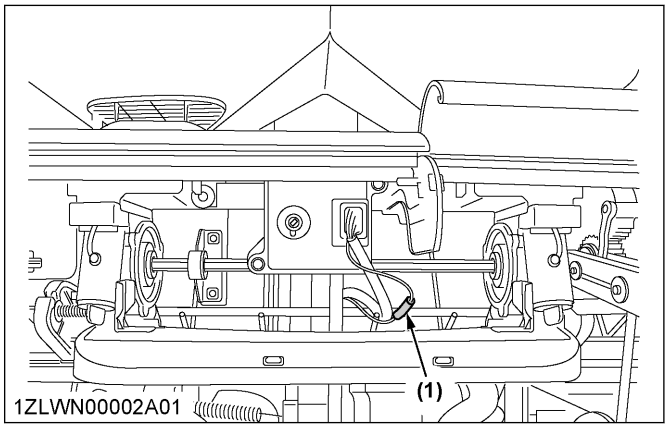
(1) カバー
(2) つまみ
(3) コントローラ
(A) 上げる
(B) 赤面
(C) つまみの赤面***[3]***が出荷位置です

- **乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。時々、作溝器内を点検してください。**
- **作溝器内の後側（センサと反対側）に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。**

- **ほ場の水位が高いほど詰りセンサがはたらきやすくなりますので注意してください。**

7. 肥料切れセンサについて

肥料切れセンサは、肥料がなくなるとセンサがはたらき警報ブザーが鳴ります。
また、肥料を入れずに田植えを行なうときは、センサがはたらき警報ブザーが鳴りますのでギボシコネクタを外して作業を行なってください。



(1) ギボシコネクタ

8. あぜぎわの植付けかた

植付け作業の最終段階で、最終の植付けを全条植えで終わらせるため、あぜぎわの調整の植付けを行なってください。（本機側の『あぜぎわの植付けかた』の項参照）

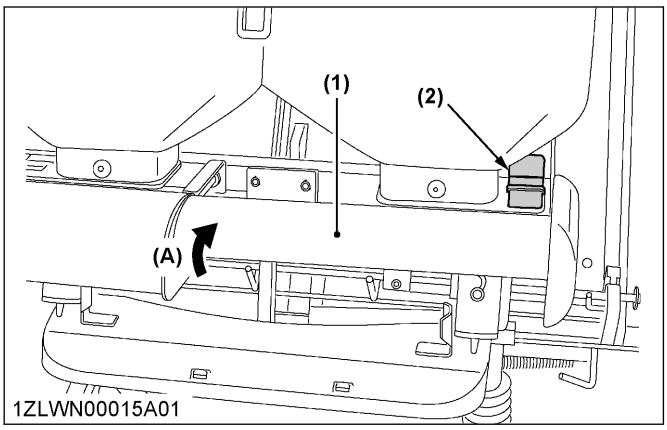
1. あぜぎわから 6 条分残ったとき、条止めレバーを**[切]**位置にし 2 条分の植付けを停止し、2 条分植付けをします。

   補足：
   - **条止めレバーに連動し、肥料の繰出しが停止します。**
   - **奇数条の調整を行なうときは、苗ストッパを使用し、苗取りと肥料の繰出しを停止してください。**

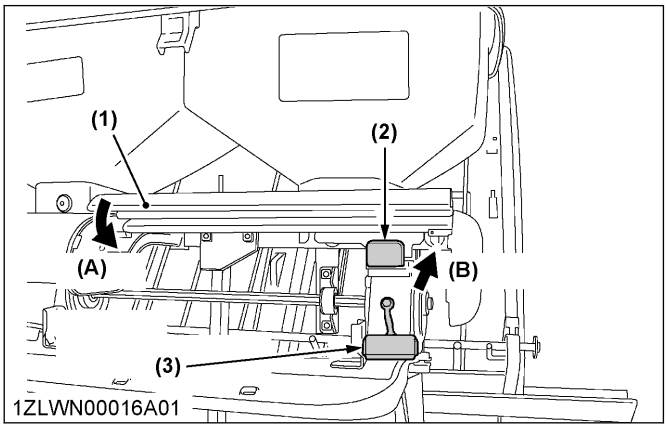
2. 左端または、右端にある条止めシャッタを収納位置から抜取ります。

   補足：
   - **条止めシャッタは 1 枚です。**

3. カバーを上側に開きます。
4. 条止めシャッタのキャップを外し、条止めシャッタを奥まできちんと差込んだあと、カバーを閉じます。



(1) カバー
(2) 条止めシャッタ
(A) 開く



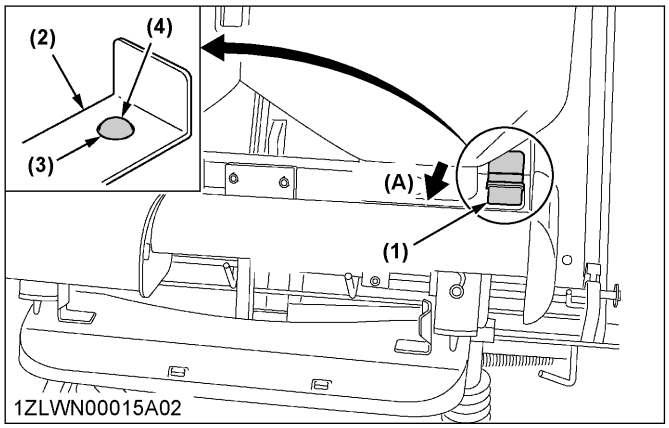
(1) カバー
(2) 条止めシャッタ
(3) キャップ（条止めシャッタ）
(A) 閉じる
(B) 差込む

補足：
- **条止めシャッタを曲げたり、差込み不足が有ると、肥料もれの原因となります。**

5. 最終は線引マーカを出さずに（収納状態）4 条で植付けます。

6. 植付け作業が終わると条止めレバーを**[入]**位置にし、苗ストッパと条止めシャッタを収納します。

補足：
- **条止めシャッタを収納したときは、落下防止のため、凸部にシャッタの穴をはめ込んでロックしてください。**

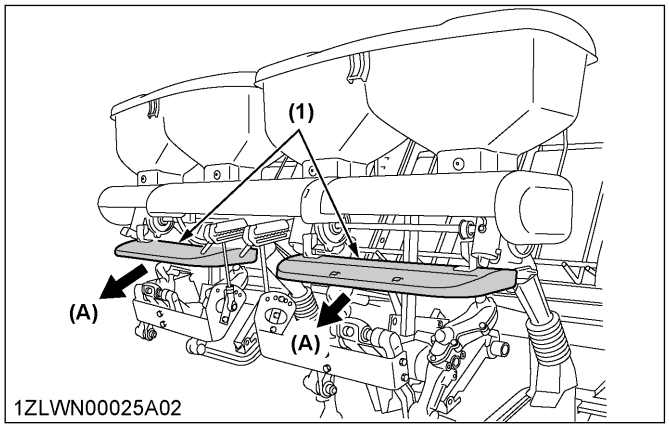


(1) 条止めシャッタ　　*(A)* 収納
(2) シャッタ
(3) 穴
(4) 凸部

9. ホッパ内の肥料の排出のしかた

⚠ 注意
- **平たんな場所でエンジンを必ず停止して行なってください。**

1. エンジンを停止したあと、植付部を降ろします。
2. 泥よけカバーを外します。

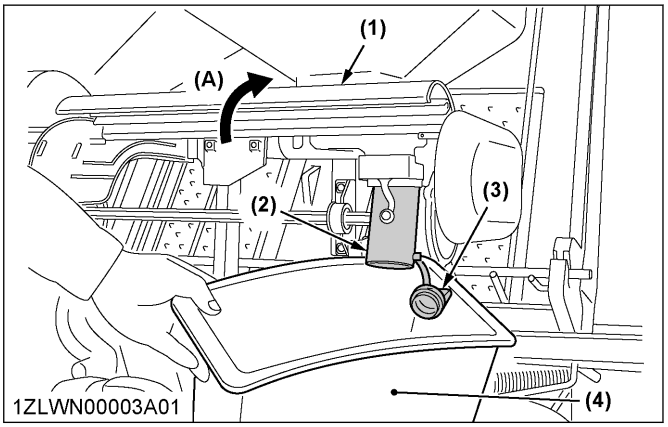


(1) 泥よけカバー　　*(A)* 外す

3. 残肥排出口に、肥料受け（空の肥料袋など）を準備します。

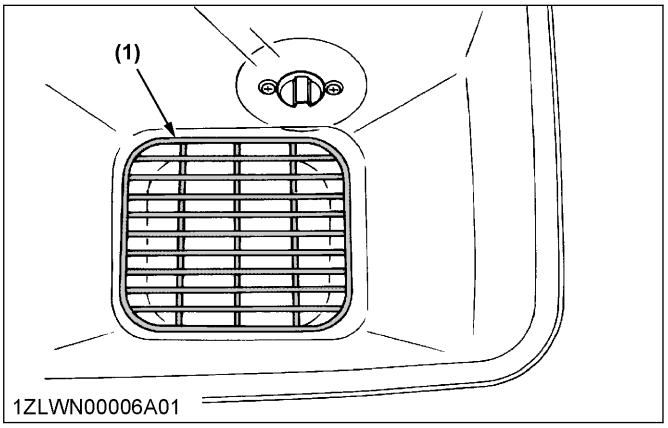
補足：
- **肥料受け（空の肥料袋や容器など）は、残量が入る大きさのものを選んでください。**

4. カバーを上げて残肥排出口のキャップを外すと同時に肥料が排出されます。



(1) カバー　　*(A)* 上げる
(2) 残肥排出口
(3) キャップ（残肥排出口）
(4) 空の容器

5. 排出が終わるとホッパのふたを開き、ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取除いてください。



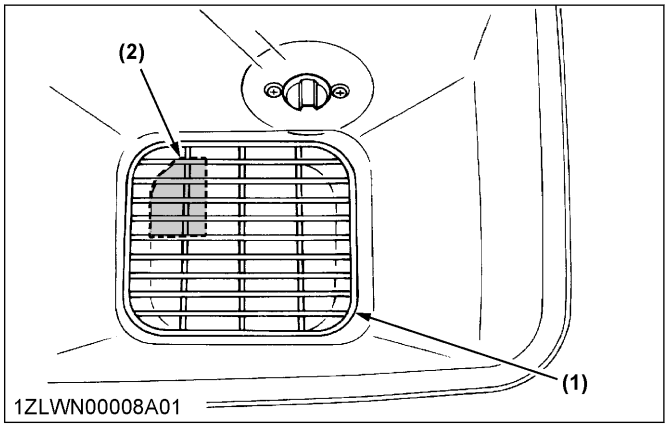
(1) ネット

6. エンジンを始動し、植付部を少し上昇し、油圧をロックして植付部の下降防止をします。
7. 植付クラッチレバーを**[植付]**位置にし、苗のせ台を1～2 往復横送りします。

補足：
- **ロールケース内に残った肥料が作溝器から排出されます。**

8. 肥料を排出し、残肥排出口のキャップを取付けたあと、カバーを閉じます。

9. ロール溝内に残った肥料を取除き、ネットを取付けます。



(1) ネット
(2) ロール溝

補足：
- **ロール溝内に肥料が残っていると湿気などで固まり、目詰まりの原因となります。**
- **ロール溝内に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると、施肥量が変化するなどの異常が発生するおそれがあります。**

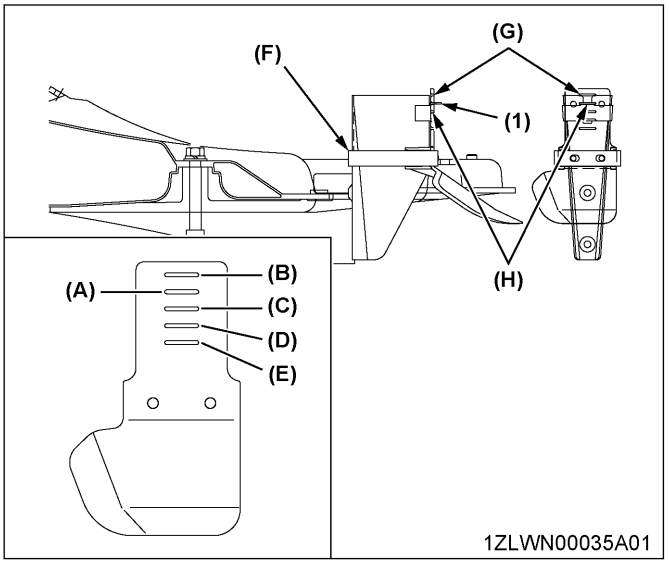
作業に合わせた各部の調節・調整

⚠ 注意
- **平たんな場所で行なってください。**

1. ふく土板の調節

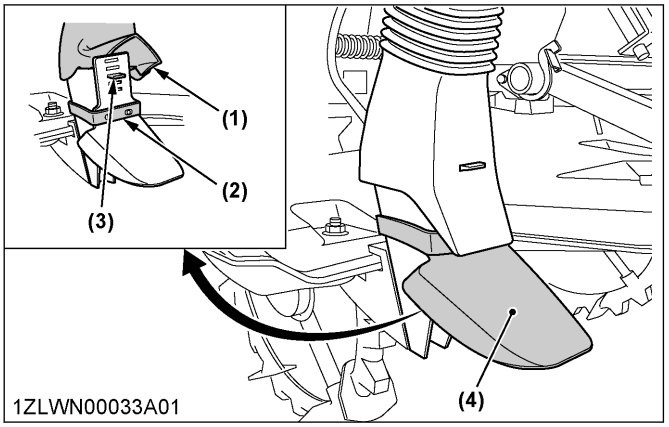
各フロート下面に有るふく土板をほ場状態に合わせて調節を行なってください。

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させます。
2. 油圧をロックして下降防止を行なったあと、エンジンを停止します。
3. トロトロなほ場で隣接の苗を倒したり溝跡が深いときはジャバラホースを上に外してふく土板の下側の穴に差し換えます。覆土していなかったり溝跡が浅いときは上側の穴に差し換えます。



(1) 爪

(A) 基準位置
(B) 深 *1*
(C) 浅 *1*
(D) 浅 *2*
(E) 浅 *3*
(F) ゴム位置も同時に変更
(G) 覆土を強くしたいとき上側の穴で組付け
(H) 覆土を弱くしたいとき下側の穴で組付け



(1) ジャバラホース
(2) ゴムバンド
(3) スリットおよび作溝器のリブ
(4) ふく土板

補足：
- **調節は全箇所共同じ高さになるようにしてください。**

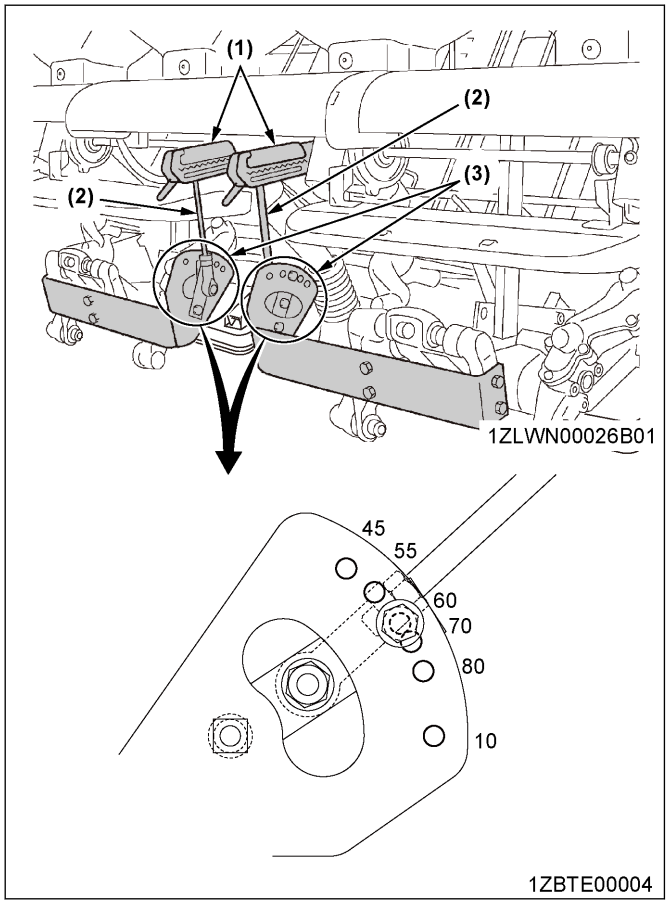
4. ジャバラホースをもとどおり組付けます。

2. 施肥量の調節[LC41]

使用する肥料により施肥（繰出し）量が異なることがありますので、肥料を入れる前によく確認してから調節を行なってください。

調節のしかた

本機で調節できる施肥量は、標準的な肥料（比重 0.9）を用いた場合 10～50 kg/10 a です。施肥量は、施肥量調量金具と株数調節金具の組合わせで調節を行なってください。また、繰出しテストを行なったあとに目標とする施肥量と異なるときは再調節を行なってください。



(1) 施肥量調量金具
(2) 駆動ロッド
(3) 株数調節金具

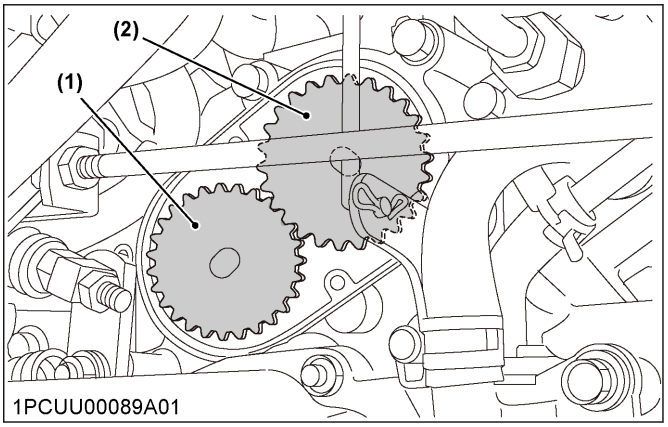
1. 平たんな場所に機械を止めてエンジンを停止します。
2. 施肥量（10 a 当りに播く量）を決めます。

   補足：
   - **【例】**
     チッソ成分 13%（成分 13-13-13）のとき、チッソ成分で 4.5 kg/10 a 施肥すると計算では、4.5(kg/10 a)÷13(%)×100 = 35(kg/10 a)となり、施肥量（製品重さ）は 10 a 当り 35 kg となります。
3. 施肥量が決まると株数調節金具の取付位置と施肥量調量金具の設定金具位置をそれぞれ動かして目標とする繰出し量の状態にします。
   （目標とする施肥量により、株数調節金具と施肥量調量金具の位置は異なります。）

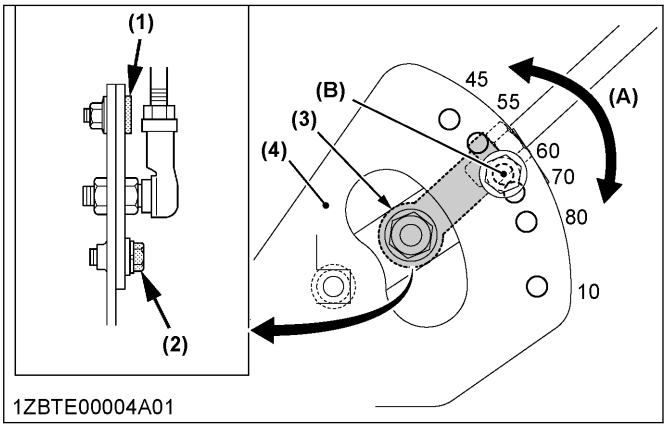
   目標値が 20～50 kg/10 a（標準施肥）の場合

   a. 本機側で設定した株数の位置にロッドエンドの位置を変更します。調節するときは、支点側ボルトをゆるめ、調節側ボルトを差換え、ロッドエンドの位置を調節したあと、ボルト・ナットを締付けます。

株間（cm）	14	16	18	20	24	26
株数（株/3.3 m^2）	80	70	60	55	45	42
A（歯数）	24	26	27	28	31	33
B（歯数）	28	27	26	24	22	21
備考	–	–	出荷時	–	–	–



(1) *A* ギヤ（左側）
(2) *B* ギヤ（右側）

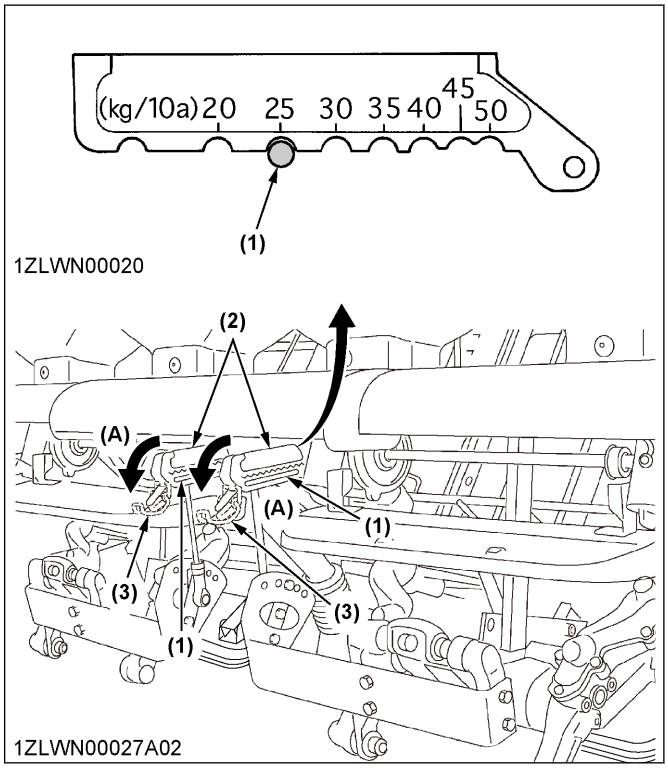


(1) 調節側ボルト
(2) 支点側ボルト
(3) ロッドエンド
(4) 株数調節金具
(A) 調節
(B) 出荷位置（*60* 株）

補足：
- **出荷時の位置は 60 株位置です。**
- **42 株/3.3 m^2 の場合は 45 の位置にセットしてください。**

b. 施肥量調量金具のパッチン錠を外し、設定金具を目標とする施肥量の位置に動かしたあと、パッチン錠を止めます。

【例】：25 kg/10 a に設定する場合

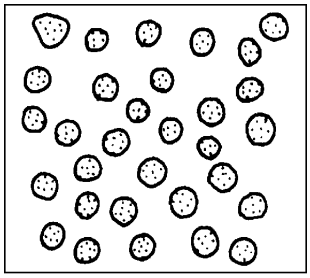
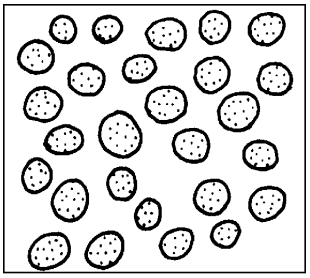


(1) 設定金具
(2) 施肥量調量金具
(3) パッチン錠
(A) 外す

補足：

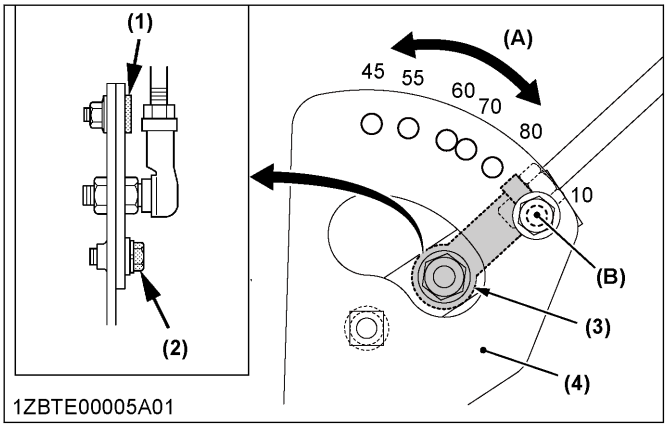
- **設定金具は調量金具の溝穴にきちんとはめ込んでください。**
- **出荷時の設定金具の位置は、20 kg/10 a 位置です。**
- **施肥量調量金具の設定数値（目盛）は、標準的な肥料（比重 0.9）を基準にした繰出し量ですので、標準的な肥料よりも粒が比較的大きい肥料の場合は、設定金具の位置を 1 段階多い方向にして繰出しテストを行なってください。**

【粒の大きさの例】

粒の大きさ：比較的小さい	粒の大きさ：比較的大きい
	
1ZBTE00010A01	1ZBTE00011A01

目標値が 10 kg/10 a、15 kg/10 a（少量施肥）の場合

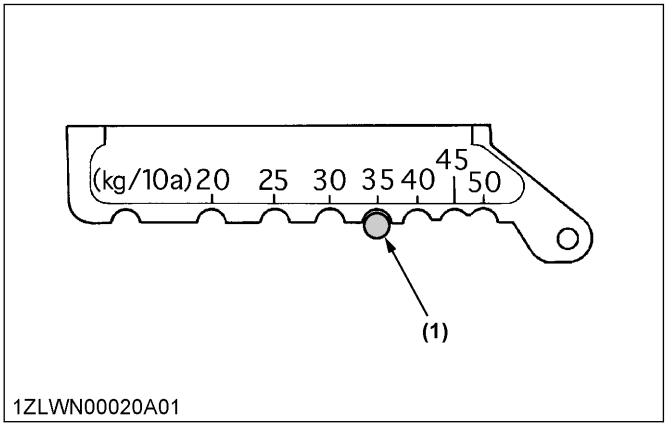
a. 支点側ボルトをゆるめ、調節側ボルトを少量施肥用の位置に動かしたあと、ボルト・ナットを締付けます。



(1) 調節側ボルト
(2) 支点側ボルト
(3) ロッドエンド
(4) 株数調節金具
(A) 調節
(B) 少量施肥取付位置

b. 施肥量調量金具のパッチン錠を外し、株間調節レバーの設定位置（株間）を確認し、施肥量目安位置一覧表を参照して設定金具を目標とする目安位置に動かしたあと、パッチン錠を止めます。

【例】：15 kg/10 a に設定する場合
本機側で設定した株数が 60 株のときは、施肥量調量金具の設定金具の目盛を 35 位置にします。



(1) 設定金具

補足：

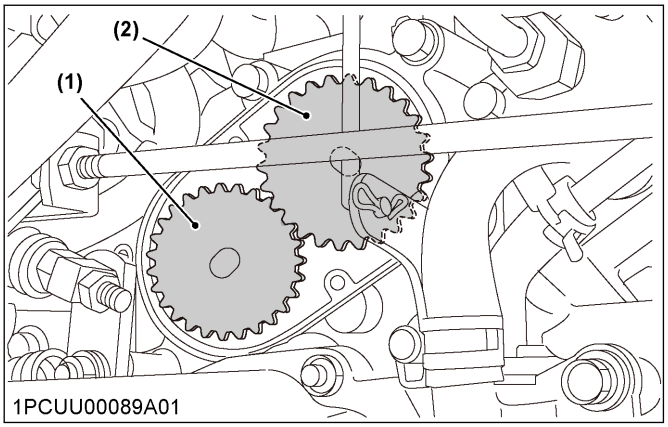
- **設定金具は調量金具の溝穴にきちんとはめ込んでください。**
- **出荷時の設定金具の位置は 20 位置です。**

施肥量目安位置一覧表

施肥量（kg/10a）	目盛 株間（株数：株）	20	25	30	35	40	45	50
10	42				●			
	45			●	●			
	55			●				
	60		●					
	70		●					
	80	●						
15	42						●	
	45					●	●	
	55					●		
	60				●			
	70			●				
	80			●				

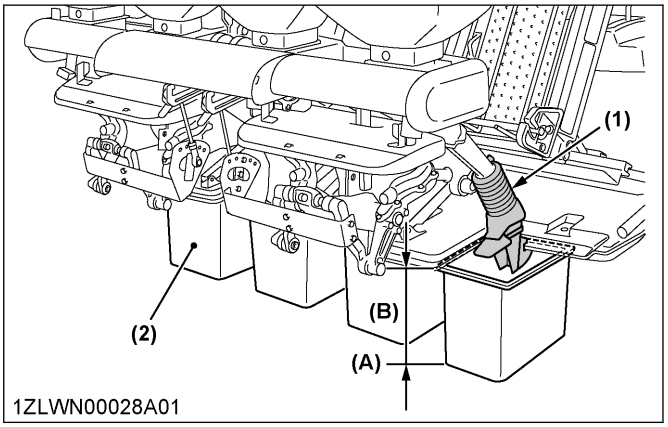
●：調節位置

株間（cm）	14	16	18	20	24	26
株数（株/3.3 m^2）	80	70	60	55	45	42
A（歯数）	24	26	27	28	31	33
B（歯数）	28	27	26	24	22	21
備考	–	–	出荷時	–	–	–



(1) *A* ギヤ（左側）
(2) *B* ギヤ（右側）

4. 繰出しテストを行ないます。
   a. 肥料を全条のホッパに入れます。
   b. エンジンを始動し、植付部を上昇させます。
   c. 植付部の油圧をロックをし、下降防止を行ないます。
   d. 植付クラッチレバーを**[下]**（下降）位置にします。
   e. 油圧ロックレバーをゆっくり後方**[開]**側に動かして植付部を地面から約 30～40 cm の位置まで降ろしたあと、油圧ロックレバーを前方**[閉]**側にして油圧をロックします。
   f. エンジンを停止します。
   g. 肥料を受ける容器の重量を測ったあと、作溝器の下側に全条分置きます。



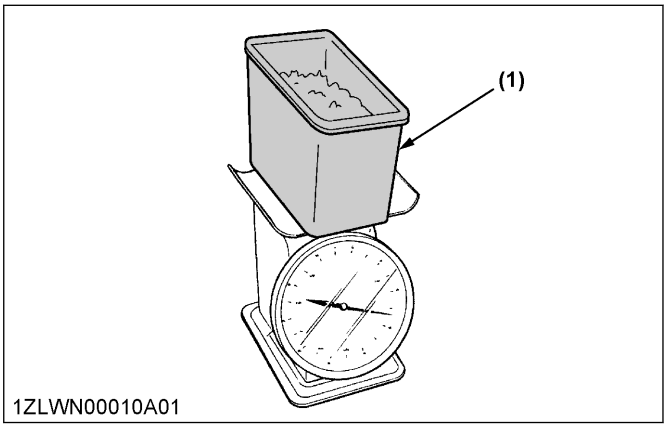
(1) 作溝器カバー　　*(A)* 地面
(2) 容器　　*(B)* *30～40 cm*

補足：
- **容器が全条分ないときは、ホッパが 2 条の場合は 2 個置き、測定箇所以外の条止めレバーを切る。または、条止めシャッタで繰出しを停止してください。**

   h. エンジンを始動します。

補足：
- **チューブが正しく組付けられているか確認してください。**

   i. 植付け作業を行なう時のエンジン回転数のセットおよび副変速レバーを**[N]**（中立）位置にセットします。
   j. ブレーキペダルから足を離し、植付クラッチレバーを**[植付]**位置にすると苗のせ台が横送りをします。
   k. 苗のせ台を 3 往復させたところで植付クラッチレバーを**[N]**（中立）位置にします。
   l. 重量を測定し、測定した重量から容器の重量を差引くと、繰出した肥料の重量となります。



(1) 容器

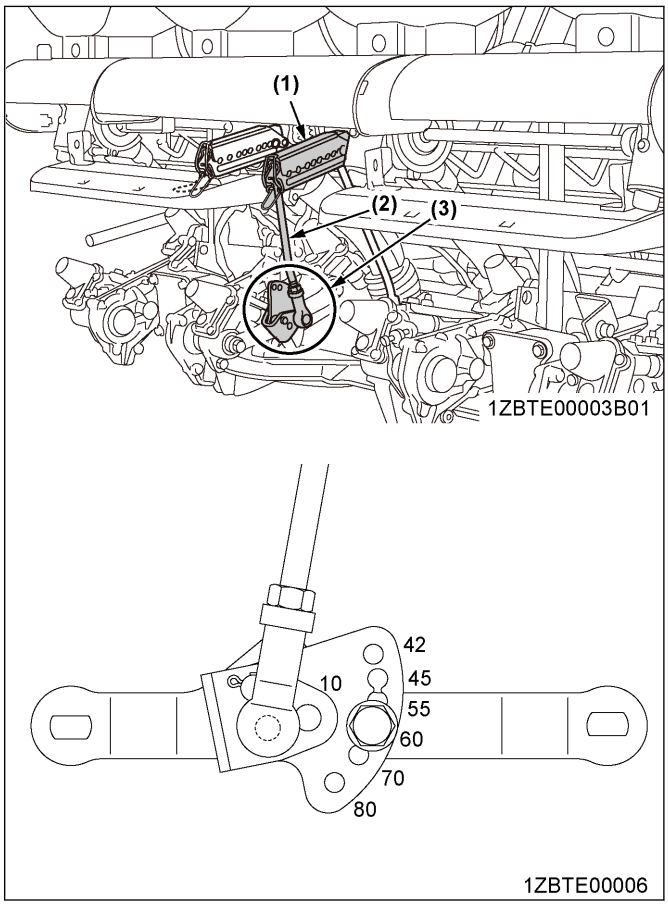
5. 実際に測った繰出し量と目標値を比較します。
   目標値と繰出し量が異なる場合は処置します。
   （詳細は繰出し量目標値一覧表（25 ページ）参照）

3. 施肥量の調節[LC41H]

使用する肥料により施肥（繰出し）量が異なることがありますので、肥料を入れる前によく確認してから調節を行なってください。

調節のしかた

本機で調節できる施肥量は、標準的な肥料（比重 0.9）を用いた場合 10～50 kg/10 a です。施肥量は、施肥量調量金具と株数調節金具の組合わせで調節を行なってください。また、繰出しテストを行なったあとに目標とする施肥量と異なるときは再調節を行なってください。



(1) 施肥量調量金具
(2) 駆動ロッド
(3) 株数調節金具

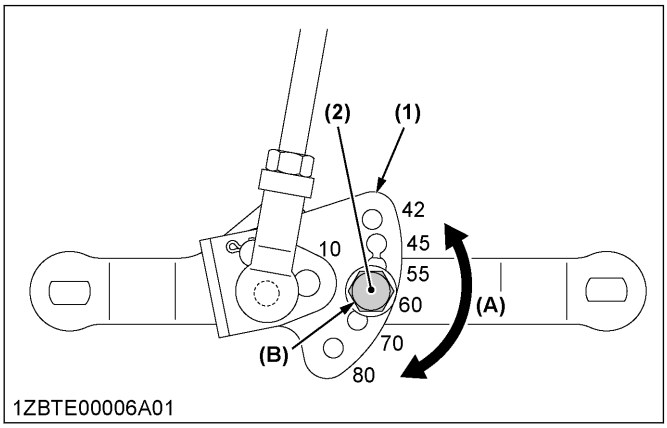
1. 平たんな場所に機械を止めてエンジンを停止します。
2. 施肥量（10 a 当りに播く量）を決めます。

   補足：
   - **【例】**
     チッソ成分 13%（成分 13-13-13）のとき、チッソ成分で 4.5 kg/10 a 施肥すると計算では、4.5(kg/10 a)÷13(%)×100 = 35(kg/10 a)となり、施肥量（製品重さ）は 10 a 当り 35 kg となります。
3. 施肥量が決まると株数調節金具の取付位置と施肥量調量金具の設定金具位置をそれぞれ動かして目標とする繰出し量の状態にします。

（目標とする施肥量により、株数調節金具と施肥量調量金具の位置は異なります。）

目標値が 20～50 kg/10 a（標準施肥）の場合

a. 本機側で設定した株数の位置にロッドエンドの位置を変更します。調節するときは、支点側ボルトをゆるめ、調節側ボルトを差換え、ロッドエンドの位置を調節したあと、ボルト・ナットを締付けます。

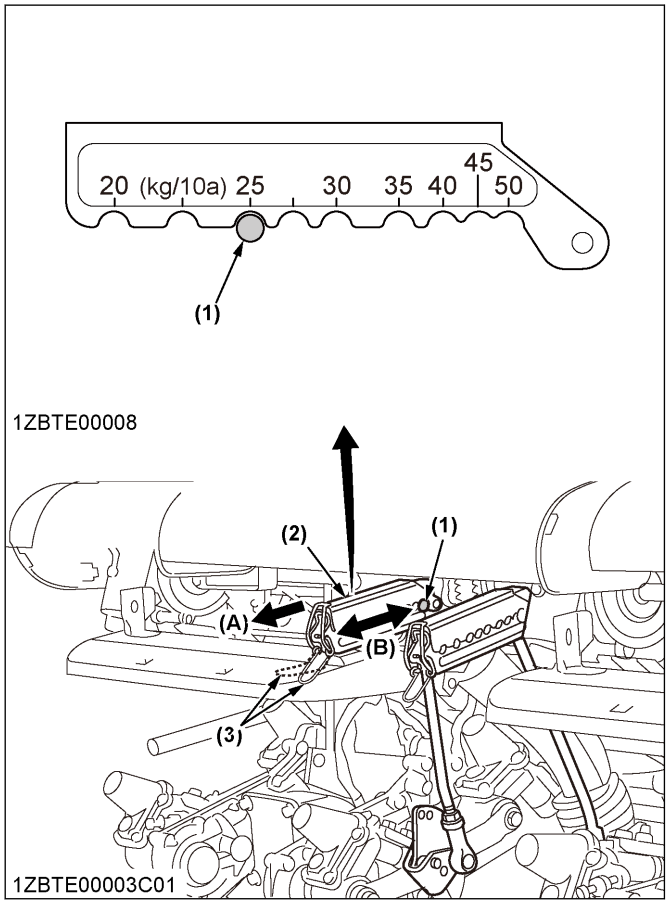


(1) 株数調節金具
(2) ボルト
(A) 調節
(B) 出荷位置（*60* 株）

補足：
- **出荷時の位置は 60 株位置です。**

b. 施肥量調量金具のパッチン錠を外し、設定金具を目標とする施肥量の位置に動かしたあと、パッチン錠を止めます。

【例】：25 kg/10 a に設定する場合

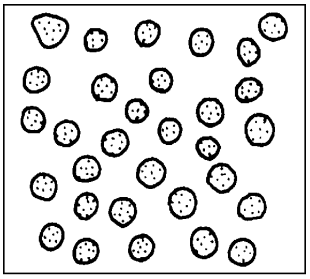
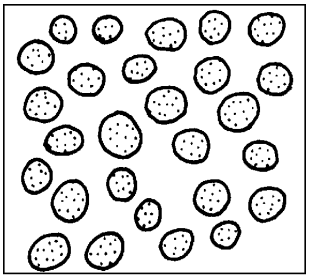


(1) 設定金具
(2) 施肥量調量金具
(3) パッチン錠
(A) 外す
(B) 調節

補足：

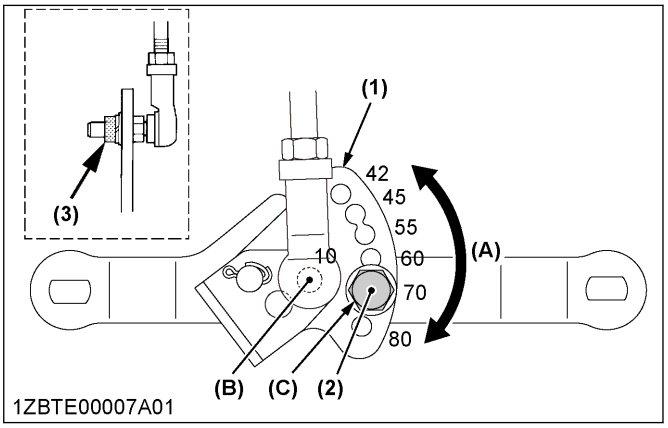
- **設定金具は調量金具の溝穴にきちんとはめ込んでください。**
- **出荷時の設定金具の位置は、20 kg/10 a 位置です。**
- **施肥量調量金具の設定数値（目盛）は、標準的な肥料（比重 0.9）を基準にした繰出し量ですので、標準的な肥料よりも粒が比較的大きい肥料の場合は、設定金具の位置を 1 段階多い方向にして繰出しテストを行なってください。**

【粒の大きさの例】

粒の大きさ：比較的小さい	粒の大きさ：比較的大きい
	
1ZBTE00010A01	1ZBTE00011A01

目標値が 10 kg/10 a、15 kg/10 a（少量施肥）の場合

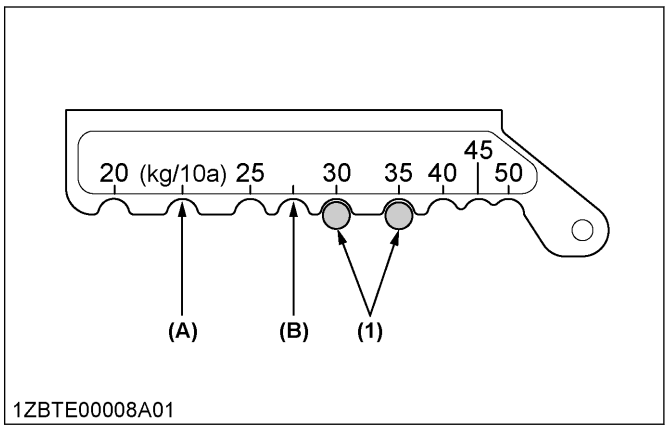
a. ボルトを 70 株の位置にし、ナットを取外し、ロッドエンドを少量施肥用の取付位置に動かしたあと、ナットを取付けます。



(1) 株数調節金具
(2) ボルト
(3) ナット
(A) 調節
(B) 少量施肥取付位置
(C) *70* 株

i. 施肥量調量金具のパッチン錠を外し、株間調節レバーの設定位置（株間）を確認し、施肥量目安位置一覧表を参照して設定金具を目標とする目安位置に動かしたあと、パッチン錠を止めます。

【例】：15 kg/10 a に設定する場合
本機側で設定した株数が 60 株のときは、施肥量調量金具の設定金具の目盛を 30 または 35 位置にします。



(1) 設定金具

(A) *(22.5)*
(B) *(27.5)*

補足：

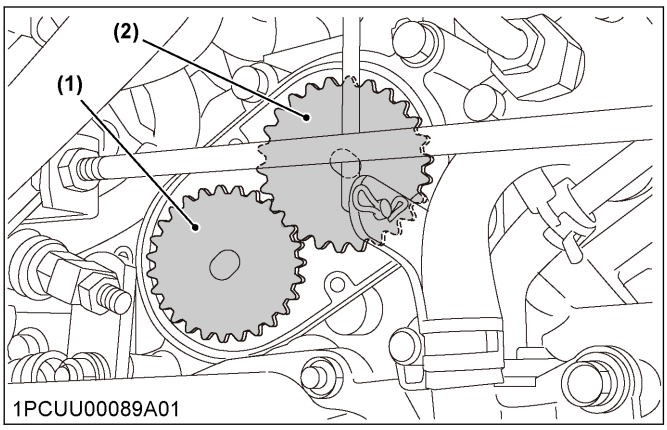
- **設定金具は調量金具の溝穴にきちんとはめ込んでください。**
- **出荷時の設定金具の位置は 20 位置です。**

施肥量目安位置一覧表

施肥量 (kg/10a)	目盛 / 株間 (株数：株)	20	(22.5)	25	(27.5)	30	35	40	45	50
10	42					●				
	45				●	●				
	55			●						
	60		●							
	70	●								
	80	●								
15	42									●
	45							●	●	
	55						●			
	60					●	●			
	70				●	●				
	80			●	●					

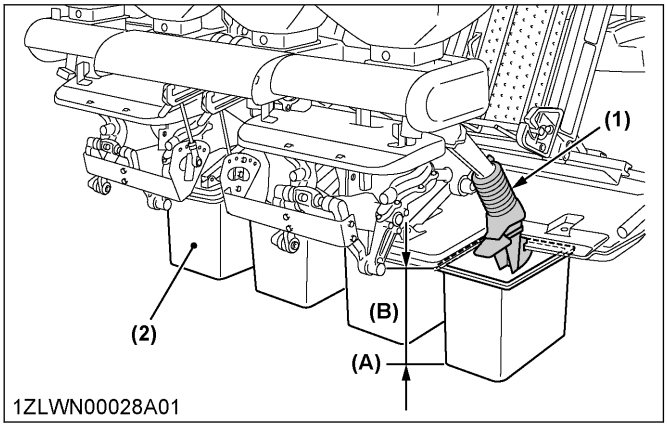
●：調節位置

株間（cm）	14	16	18	20	24	26
株数 (株/3.3 m^2)	80	70	60	55	45	42
A（歯数）	22	24	26	27	30	31
B（歯数）	31	28	27	26	24	23
備考	–	–	出荷時	–	–	–



(1) *A* ギヤ（左側）
(2) *B* ギヤ（右側）

4. 繰出しテストを行ないます。
   a. 肥料を全条のホッパに入れます。
   b. エンジンを始動し、植付部を上昇させます。
   c. 植付部の油圧をロックをし、下降防止を行ないます。
   d. 植付クラッチレバーを**[下]**（下降）位置にします。
   e. 油圧ロックレバーをゆっくり後方**[開]**側に動かして植付部を地面から約 30～40 cm の位置まで降ろしたあと、油圧ロックレバーを前方**[閉]**側にして油圧をロックします。
   f. エンジンを停止します。
   g. 肥料を受ける容器の重量を測ったあと、作溝器の下側に全条分置きます。



(1) 作溝器カバー
(2) 容器

(A) 地面
(B) *30～40 cm*

補足：

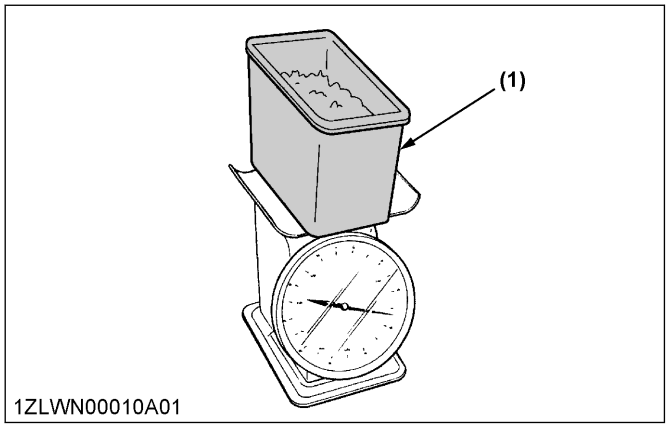
- **容器が全条分ないときは、ホッパが 2 条の場合は 2 個置き、測定箇所以外の条止めレバーを切る。または、条止めシャッタで繰出しを停止してください。**

   h. エンジンを始動します。

補足：

- **チューブが正しく組付けられているか確認してください。**

i. 植付け作業を行なう時のエンジン回転数のセットおよび副変速レバーを**[N]**（中立）位置にセットします。
j. ブレーキペダルから足を離し、植付クラッチレバーを**[植付]**位置にすると苗のせ台が横送りをします。
k. 苗のせ台を 3 往復させたところで植付クラッチレバーを**[N]**（中立）位置にします。
l. 重量を測定し、測定した重量から容器の重量を差引くと、繰出した肥料の重量となります。

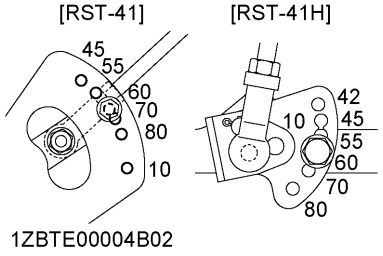
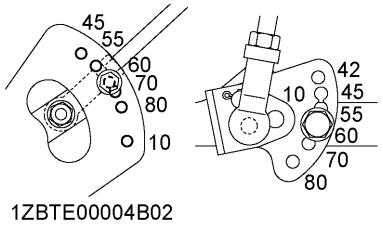


(1) 容器

5. 実際に測った繰出し量と目標値を比較します。
目標値と繰出し量が異なる場合は処置します。
（詳細は繰出し量目標値一覧表（25 ページ）参照）

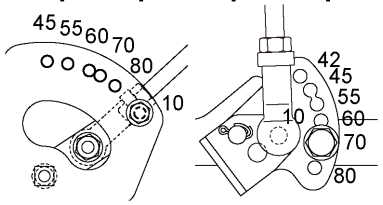
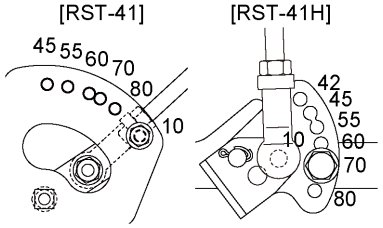
4. 繰出し量目標値一覧表

20～50 kg/10 a（標準施肥の場合）
この表は、株数調節金具（株）と施肥量調量金具（kg/10 a）の各組み合わせで、苗のせ台を“*3* 往復（*6* 行程）横送り”した場合の 1 条当りの目標繰出し量（g）です。

横送り回数	株数調節金具 （出荷時：60 株位置） 株数に合わせて設定変更	株数（数）	施肥量（kg/10 a）						
			20	25	30	35	40	45	50
20 回	[RST-41] [RST-41H]  1ZBTE00004B02	42	190 g	235 g	280 g	330 g	375 g	420 g	470 g
		45	175 g	215 g	260 g	300 g	345 g	390 g	430 g
		55	145 g	180 g	215 g	250 g	290 g	325 g	360 g
		60	130 g	160 g	195 g	225 g	260 g	290 g	325 g
		70	115 g	145 g	175 g	200 g	230 g	260 g	290 g
		80	100 g	125 g	150 g	175 g	200 g	335 g	250 g
26 回	[RST-41] [RST-41H]  1ZBTE00004B02	42	245 g	305 g	365 g	425 g	485 g	550 g	610 g
		45	225 g	280 g	335 g	395 g	450 g	505 g	560 g
		55	185 g	235 g	280 g	330 g	375 g	420 g	470 g
		60	170 g	210 g	255 g	295 g	335 g	380 g	420 g
		70	150 g	185 g	225 g	260 g	300 g	335 g	375 g
		80	130 g	165 g	195 g	230 g	260 g	295 g	330 g

※上記施肥量は 1 条当りの施肥重量です。

10 kg/10 a・15 kg/10 a（少量施肥の場合）
この表は、株数調節金具（株）と施肥量調量金具（kg/10 a）の各組み合わせで、苗のせ台を“*3* 往復（*6* 行程）横送り”した場合の 1 条当りの目標繰出し量（g）です。

横送り回数	株数調節金具のロッドエンド取付位置 設定固定	株数（数）	施肥量（kg/10 a）	
			10	15
20 回	[RST-41] [RST-41H]  1ZBTE00005B02	42	95 g	140 g
		45	85 g	130 g
		55	70 g	110 g
		60	65 g	95 g
		70	60 g	85 g
		80	50 g	75 g
26 回	[RST-41] [RST-41H]  1ZBTE00005B02	42	120 g	180 g
		45	120 g	180 g
		55	110 g	170 g
		60	85 g	125 g
		70	75 g	110 g
		80	65 g	100 g

※上記施肥量は 1 条当りの施肥重量です。

目標値と繰出し量が異なる場合

測定結果	処置内容	変更例
繰出し量が目標値より“少ない場合”	施肥量調節金具の設定位置を“大きく”する。	25（kg/10 a）を 30（kg/10 a）の位置に変更する。
	施肥量調節金具の位置が最大位置の 50（kg/10 a）の位置で、目標より少ない場合は、株数調節金具の株数を“小さく”する。	70（株）を 60（株）の位置に変更する。
繰出し量が目標値より“多い場合”	施肥量調節金具の設定位置を“小さく”する。	40（kg/10 a）を 35（kg/10 a）の位置に変更する。
	施肥量調節金具の位置が最小位置の 20（kg/10 a）の位置で、目標より多い場合は、株数調節金具の株数を“大きく”する。	70（株）を 80（株）の位置に変更する。

補足：

- **肥料の種類により繰出し量が異なる場合がありますので、実際に繰出しテストまたは、施肥作業を行なって、目標とする施肥量に調節してください。**

メンテナンス

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行なってください。

⚠ 警告

- **エンジンを必ず止めてください。**
- **取外したカバー類は衣服などが巻込み危険ですので必ず取付けてください。**
- **植付部を上げた状態で作業するときは、油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。**
- **空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。**
- **オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。**
- **ビークの爪先には注意してください。**

1. 掃除のしかた

一日の作業が終わったあとや長期格納前は、各部の泥やゴミ、施肥部の掃除を必ず行なってください。掃除するときは、高圧水などを使用すると、泥落としが早く行なえます。

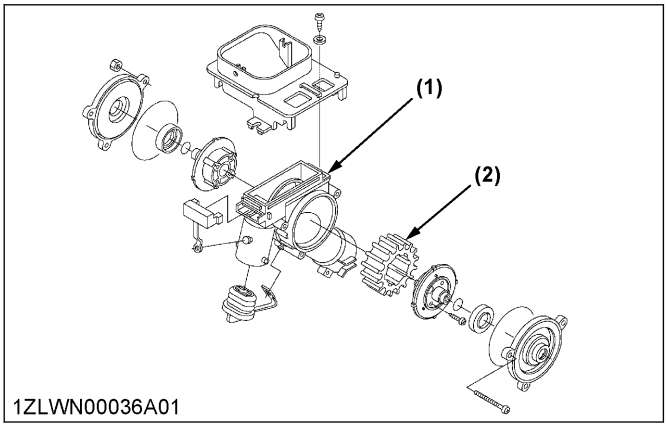
重要：

- **水洗いをするとき下記事項に注意してください。**
  - **作業シーズン中、ホッパ内に水を入れないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。**
- **取外したボルト・ナットは、必ず締付けてください。**

1.1 施肥部

日常の掃除

1. ホッパ内、ロールケース内のロールおよびチューブにたまっている肥料を取除いてください。また、湿っているときは、乾いた布などでふき取ってください。

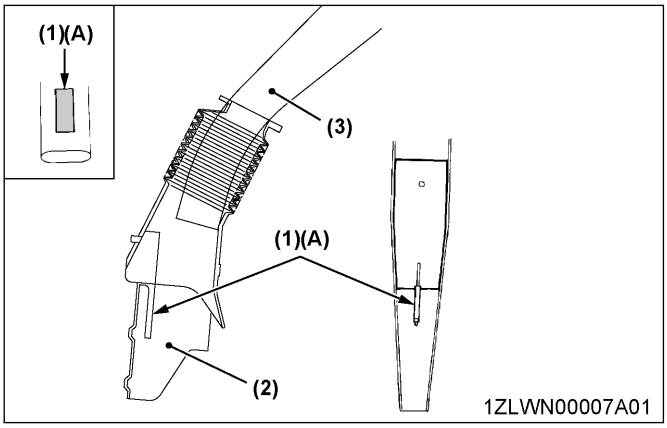


(1) ロールケース
(2) ロール

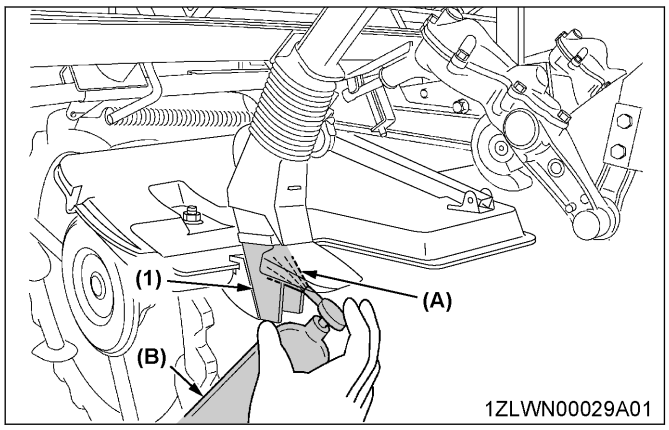
2. 作溝器部の泥や水はよく取除いてください。

補足：

- **洗剤の空容器などを利用して水を入れ、電極部分などに付着した肥料を洗い流してください。（チューブ内はぬらさないこと）**



(1) 電極
(2) チューブ
(3) 作溝器
(A) 湿った肥料が電極に付着すると通電してブザーで知らせる



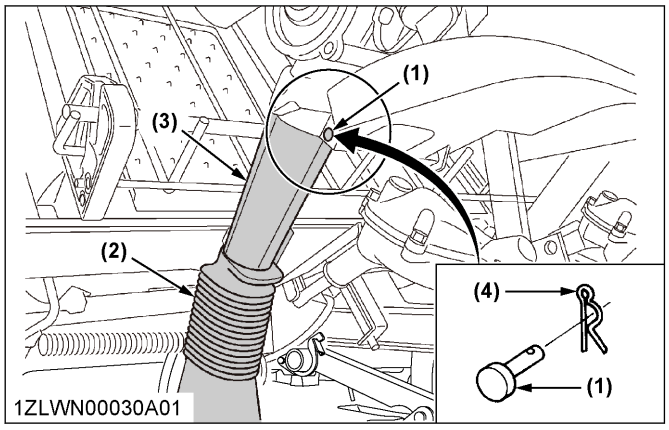
(1) 作溝器
(A) 洗い流す
(B) 洗剤の空容器などを利用

- **チューブの中も同時に掃除してください。**

長期格納前

施肥機を空運転しながら、ホッパ、ゴムロール、チューブ、作溝器などを水道水でよく水洗いしたあと自然乾燥してください。

1. 特にチューブは取外して水洗いし、付着している泥や肥料を取除いてください。
   各チューブの掃除をするときは、泥よけカバーを外して各チューブを取外してください。チューブを取外すときは、スナップピンと頭付ピンを取外し、作溝器上部カバーから抜き取ってください。また、取外したチューブの中に付着した肥料を水でよく洗い流し、乾燥させてから頭付ピンとスナップピンでチューブを取付けてください。
   そのあと、チューブと作溝器上部カバーが接触しているところにグリースを注入してください。



(1) 頭付きピン
(2) 作溝器上部カバー
(3) チューブ
(4) スナップピン

2. 機体をよく水洗いし、付着している泥や肥料を取除いてください。
3. 塗装のはがれた部分は、腐食を防ぐため塗装しておいてください。

2. 注油のしかた

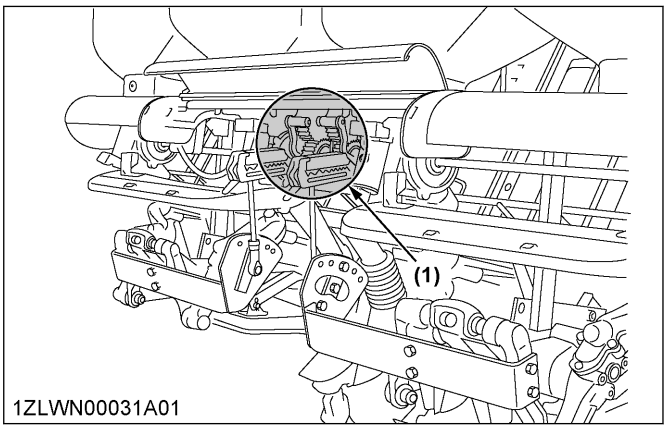
機体各部の掃除が終わったあとや長期格納前または、田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

補足：

- **注油やグリース塗布をする前に、水が付着しているときは、ふき取って行なってください。**

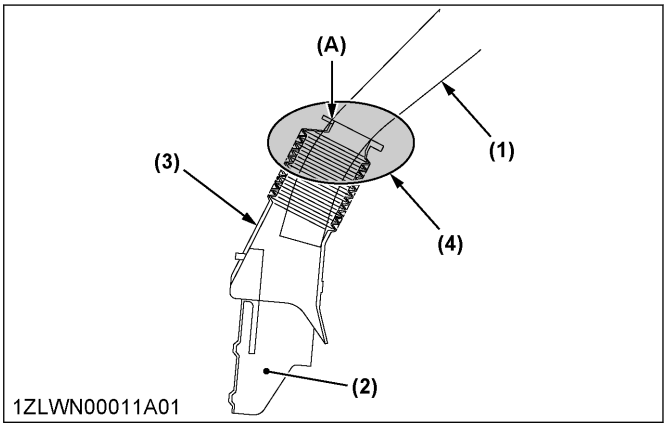
注油、グリース塗布・注入箇所

ロールクラッチ部



(1) ロールクラッチ部

作溝器カバーとチューブのしゅう動部



(1) チューブ
(2) 作溝器
(3) 作溝器カバー
(4) しゅう動部
(A) グリース注入

定期点検

定期点検は、施肥作業を行なう人が定期的に行なう点検です。
施肥作業は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては施肥機の寿命を短くしてしまいます。
施肥機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行ないましょう。

警告

- **各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて、各レバー類を“切”位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。**
- **取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがありますので、点検後はカバー類を必ず取付けてから作業をしてください。**
- **各部の点検・調整・交換作業を行なうときは、平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **植付部を上げた状態で作業を行なうときは、油圧をロックし、植付部の下降防止を行なってください。**

補足：

- **専門的な技術や特殊工具を必要とする場合および定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印の有る項目は、購入先にご相談ください。**
- **点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。したがってひとつの目安として早めの点検をお願いします。**

1. 定期点検一覧表

点検箇所・項目		点検・処置	点検・交換時期								参照ページ
			作業前後	シーズン前後	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	1 年ごと	2 年ごと	
施肥部	チューブ	点検・交換	○								27 ☆
			△：破損時								
	ロールケース・ロール	掃除	○								27

○：点検と調整
△：交換

- 参照ページに☆印の有る整備項目の交換については、購入先に連絡または、整備工場で行なってください。

補足：
- **上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。**
- **使用時間については、“主要諸元”の“作業能率”（34 ページ）を参照して確認してください。**

2. 給・注油点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
グリース	ローラクラッチ部	補給	分解時	–	適量	極圧（万能）グリース（No.2）	28
	カバー（チューブ）						

重要：
各部への補給
- **点検するときは、機体を平たんな場所において行なってください。**
- **使用するオイル・グリースは、指定のオイル・グリースを使用してください。**
- **補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

補足：
- **使用時間については、“主要諸元”の“作業能率”（34 ページ）を参照して確認してください。**

3. 電装部の各配線コードの点検

⚠ 注意
- **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

各配線コードの点検・交換
各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れが有るときは確実に差込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先へ連絡して交換してください。

植付け作業後の手入れ

植付け作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日または、翌年の田植作業に備えてください。

1. 毎日の作業後

⚠ 警告

- **機体に本機カバーをかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。**
- **掃除する場合は、必ずエンジンを停止させてから行なってください。**

1. 平たんな場所に田植機をとめます。
2. 機体各部の泥などを取除いたあと、必要に応じて各部に注油を行ないます。
   （各部の掃除と注油のしかた（27 ページ）参照）
3. 格納場所に格納します。

2. 長期格納時

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

各部の掃除・注油と補修

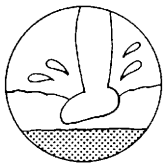
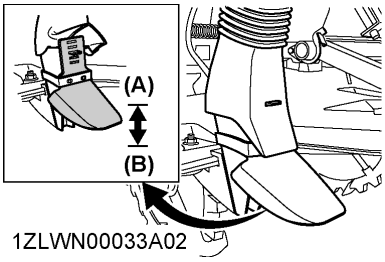
- 施肥機の掃除と注油を行なってください。
  （各部の掃除と注油のしかた（27 ページ）参照）

重要：

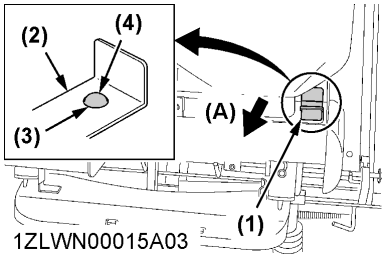
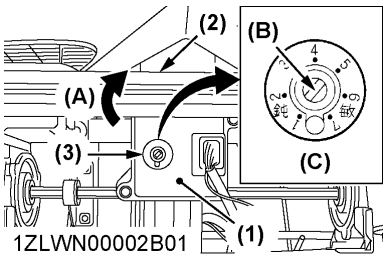
- **機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。**

乗用田植機の不調と処置

浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロで軟らかいほ場  1AKABAKAP039A	ふく土板で泥を押す。	**機械の処理** 各フロート下面の各ふく土板の取付位置を高くする。	 1ZLWN00033A02 *(A)* トロトロほ場 *(B)* 標準または硬いほ場
	車輪がスリップして調節した施肥量と異なる。	施肥量を再調節してください。	

施肥をしない・施肥量がばらつく

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
機械の設定		**機械の処置** 条止めシャッタを使用しているとき（繰出し停止状態）は、収納位置に戻す。	 1ZLWN00015A03 *(1)* 条止めシャッタ *(2)* シャッタ *(3)* 穴 *(4)* 凸部 *(A)* 収納
各部の詰まり		**機械の処置** 1. ホッパ内に肥料の固まりがあれば取除く。 2. ホッパ内、ロールケース内、ロール溝、各ホース、作溝器内に付着した肥料は取除く。 **補足：** • **深水ほ場で、苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して、詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを“鈍”側（鈍感）の方向に調整して作業を続けてください。** • **乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。時々作溝器内を点検してください。** • **ほ場の水位が高いほど詰りセンサがはたらきやすくなりますので注意してください。**	 1ZLWN00002B01 *(1)* コントローラ *(2)* カバー *(3)* つまみ *(A)* 上げる *(B)* 赤面 *(C)* つまみの赤面***[3]***が出荷位置です

付表

主要諸元

型式名				RST-41	
区分				–	H
機体寸法	全長 {作業時}（mm）			2270 {2300}	
	全幅 {作業時}（mm）			1340 {1600}	
	全高（mm）			1520 {1180}	
	最低地上高（mm）			340	
機体質量（kg）				270	280
植付部	植付方式			クランク式強制植付け	ロータリ式強制植付け
	植付部		昇降方式	油圧式	
			装着方式	平行 4 点リンク	
	植付	条数（条）		4	
		条間（cm）		30	
		株間（cm）		*1 *2 14、16、18、20、24、26	
		株数（株/3.3 m^2）		*1 *2 80、70、60、55、45、42	
		深さ（cm）		1～4［7 段階］	
	1 株本数調節量	横送り量（mm（回数）/株）		11 (26)、14 (20)［ギヤ交換：2 段］	
		縦かき取り量（mm/株）		8～18	
施肥装置	肥料の種類			粒状化成肥料	
	施肥方法			側条作溝施肥・強制埋設	
	施肥位置（cm）			苗の側方：4.5、深さ：5	
	肥料ホッパ容量（L×個 {kg}）			16 × 2 {29}*3	
	繰出方式			溝付ロール式	
	繰出量調節方式			ロール回転数調節式	
	繰出量調節範囲（kg/10 a）			10 ～ 50*3	
	ふく土方式			フロートとふく土板	
作業速度(m/s)				*1 0～0.6	*1 0～0.74
作業能率（計算値）（分/10 a）				*1 42～	*1 34～

- この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

*1 車輪スリップ率 10 パーセント

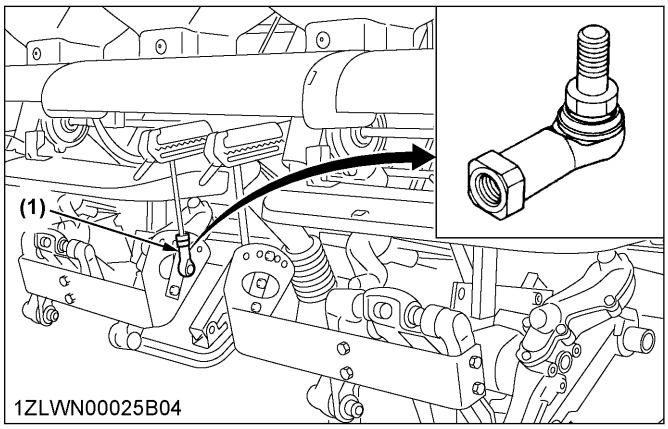
*2 14、16、18、20、24、26 cm の切換えは、ギヤ組換え式

*3 高度化成肥料（0.9 g/cm^3）のとき

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。
- 保証書
- 取扱説明書

消耗部品（純正部品を使いましょう）



図番	品名	品番	対象型式
1	ロッドエンド	99660024521	全型式

索引

あ

あぜぎわの植付けかた..... 15
安全ラベル
　手入れ..... 3
　貼付位置.....3
一発肥料
　使用時の注意.....12
移動・輸送について.....9

か

株数調節金具.....7
給・注油点検一覧表.....30
繰出し量目標値一覧表..... 25
ご相談窓口..... 5

さ

主要諸元.....34
消耗部品.....35
乗用田植機の不調と処置
　植付けが乱れる.....32
　浮苗が出る..... 32
　施肥量がばらつく..... 33
　施肥をしない.....33
施肥作業中の確認..... 14
施肥装置
　掃除のしかた.....27
　注油のしかた.....28
　日常点検.....8
　名称とはたらき.....6
施肥部
　掃除のしかた.....27
施肥ムラ（成育ムラ）の防止..... 14
施肥量
　調節[LC41]..... 17
　調節[LC41H].....21
施肥量調量金具.....7

た

田植作業
　作業前の準備.....13
長期格納時
　手入れ..... 31
定期点検一覧表.....30
電装部の各配線コード
　点検.....30

は

肥料切れセンサ..... 15
肥料詰りセンサ..... 14
肥料について.....10
肥料の補給のしかた.....14
ふく土板
　調節.....17
付属部品.....35
補修用部品
　供給年限.....5
ほ場条件.....10
ホッパ..... 7
　肥料の排出のしかた.....16

ま

毎日の作業後
　手入れ..... 31

ら

ロールケース（繰出し部）.....7